

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-1 安心して子どもを産めるまちをつくります

計画事業名	妊婦健康診査の充実						
主な取組内容	妊婦健康診査にかかる費用について、年間14回の助成を行います。また、妊婦超音波検査の回数増や里帰り等妊婦健康診査費用の助成を行います。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
妊婦健診助成の実施		14回 受診促進	充実				継続
妊婦超音波検査助成の実施		1回 受診促進					継続
里帰り等妊婦健康診査費用助成							継続

所管部局	保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【妊婦健診助成の実施】 ○妊婦の健康診査にかかる費用を助成（1人当たり14回分）しました。健診の受診数は、1回目 5,865人、2～14回目延べ 56,779人で、受診率は 88.7%でした。	4	
【妊婦超音波検査助成の実施】 ○妊婦超音波検査にかかる費用を助成（1人当たり1回）しました。検査人数は、4,805人でした。	4	
【里帰り等妊婦健康診査費用助成】 ○都外医療機関や助産所等、妊婦健診、超音波券が使用できない医療機関での妊婦健診等受診について、償還払い方式で助成しました。助成人数は 1,382人（1回目 263人、2～14回目延べ 8,341人、超音波検査 177人）でした。	4	
決算額	428,925,120円	
次年度以降の主な取り組み		
○母子健康手帳交付時に妊婦健康診査の重要性を説明し、積極的受診を勧めます。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-1 安心して子どもを産めるまちをつくります

計画事業名	すこやか赤ちゃん訪問事業の推進						
主な取組内容	健やかな子育てを支援するために、すべての乳児家庭を生後4か月頃までに訪問する体制を整備します。訪問により子育て情報の提供、乳児とその保護者の心身の状況や養育環境の確認、相談支援を実施します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
すこやか赤ちゃん訪問事業の実施			充実				継続

所管部局	保健所、こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容		進捗状況
<p>【すこやか赤ちゃん訪問事業の推進】</p> <p>○すこやかな子育てを支援するため、出生数 5,691 人のうち、延べ 5,583 人の乳児がいる家庭を、生後 4 か月頃までに訪問しました（訪問率 95.6%）。</p> <p>○産後うつスクリーニングテスト等により、提供サービスの標準化及び質の向上を図りました。</p> <p>○子育ての孤立化を防ぐため、訪問の際に様々な不安や悩みを聞き、必要に応じて地域の子育てグループ、養育支援家庭訪問事業、児童館、家事・育児支援サービス等、民間の社会資源の情報提供を行いました。支援が必要な家庭には、適切なサービスに結びつけるよう同行受診等により支援しました。</p>		4
決算額	29,228,804 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○すべての乳児家庭を生後 4 か月頃までに訪問する体制を整備します。</p> <p>○全ての訪問家庭で、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、地域の子育てグループ・民間の社会資源の必要な情報提供を行います。</p> <p>○特に支援が必要な家庭に対しては、養育支援家庭訪問事業など適切なサービスに結びつけるよう支援します。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-1 安心して子どもを産めるまちをつくります

計画事業名	両親学級(一日制)の充実						
主な取組内容	一日制(土または日曜開催)の両親学級は、育児に関する保健知識を得るとともに、「両親で子育てをしていく」という意識を持つよう、父親の育児参加を促すことを目的とした夫婦参加型の教室です。育児負担の大きい母親の心と身体の健康や、家族の積極的な協力を支援します。また、三日制の両親学級も開催していきます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
両親学級(一日制)の実施		23回/年		30回/年			継続
両親学級(三日制)の実施		38回/年					継続



所管部局	保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【両親学級（一日制）の実施】</p> <p>○夫婦参加型の一日制の両親学級（土日開催 29 回・参加者延べ 1,579 人、平日開催 1 回・参加者 33 人）を開催しました。</p> <p>○平成 24 年 1 月から開始した電子申請を周知し、申請の利便性を図るとともに、参加希望者名簿の一元管理化により落選者の減少に努めました。</p>	4	
<p>【両親学級（三日制）の実施】</p> <p>○三日制の両親学級（平日開催 38 回・参加者延べ 2,244 人）を開催しました。参加の利便性を図るため、今年度から 4 地域健康課全て異なる曜日（平日）で開催しました。</p> <p>○「祖父母向け学級」について、祖父母世代にアンケート（74 人）を実施した結果、「祖父母向け学級」への参加希望は 4 割程度でした。一方、昨年度実施した両親世代への「祖父母向け学級」需要調査では、実施を望む声は少なかったため、「両親で子育て」を軸として両親学級を充実させていくこととしました。</p>	4	
決算額	6,251,868 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○一日制の両親学級については、希望者全員が受講できるよう参加希望者名簿を 4 地域健康課一元管理とし、希望者が全員受講できるように調整していきます。</p> <p>○三日制の両親学級については、受講者へアンケートを実施し、子育て支援につながる区民満足度の高い教室となるよう、講義内容を検討していきます。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

計画事業名	親の子育て力向上支援						
主な取組内容	育児支援と虐待の未然防止を図るため、子育て力向上プログラムを実施します。親の状況に応じた支援を行うため、親同士が自分の力を出し合い、相互に学び合うグループを支援する人材(ファシリテーター*)を養成します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
ファシリテーターの養成		→					継続
事業計画策定		検討	策定	点検	検証		
グループワークの実施		→					継続

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【ファシリテーターの養成】 ○各プログラム終了後にファシリテーターの反省会の場を設け、振り返りや改善点を出し合いました。また、ファシリテーターの研修会では、各プログラムでの様子や反省点などを発表し、意見交換を行うことで共通認識を図り、ファシリテーターのスキルアップに繋がりました。	4	
【事業計画の策定】 ○事業効果を検証した結果、グループワーク参加者のアンケートからの大半の感想は、「育児の悩みを共有することで、育児不安や育児の孤立感の解消ができた」とあることから、この事業の効果が図れていることを確認しました。	4	
【グループワークの実施】 ○子育ての戸惑いや悩みなどに加え、関心のあることをグループで話し合いながら、自分に合った子育てを学んで行くグループワークを8コース(1コース:週1回を6週間連続、参加者77人)実施しました。	4	
決算額	761,903 円	
次年度以降の主な取り組み	○隔年実施のファシリテーター養成講座を行います。 ○引き続きファシリテーターのスキルアップを図り、グループワークを8コース実施して、子育て力向上を推進します。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

計画事業名	子育て応援サイト*の運営						
主な取組内容	子育て支援策の一環として、インターネット*による子育て情報の提供を充実させるため、区民参加型で子育てに関する地域密着情報サイトを運営します。このサイトでは、行政サービス、子育てイベント情報、お出かけ情報、掲示板等を掲載・運営し、身近で役に立つ情報をわかりやすく紹介していきます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
子育て応援サイトの運営	企画・設計						検証
	サイトの構築・運営	区民参加手法の検討					継続

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【子育て応援サイトの運営ーサイトの構築・運営】</p> <p>○両親・育児学級や子育て講座等、妊娠期から乳幼児向けの情報や、子ども科学教室等小中学生以上向けの情報等、最新の子育て情報を提供しました。平成 24 年度のアクセス数は 548,701 件でした（前年度比 63,899 件増）。</p> <p>○区民委員の運営による「おおた子育てほっとカフェ」については、昨年度に引き続き編集委員会（12 回）を開催し、委員の取材記事の編集を行い、サイトに掲出しました。今年度は委員を 8 人から 12 人に増やし、様々な世代のニーズを取り入れた記事をより多く作成できたこともあり、アクセス数を大幅に伸ばすことができました。</p>	4	
決算額	7,578,154 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○引き続き子育て応援サイトの安定的な運営、内容の充実を図ります。</p> <p>○「おおた子育てほっとカフェ」については、記事掲載件数・内容をさらに充実させ、区民参加型の運営を推進します。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

計画事業名	家庭福祉員制度の充実						
主な取組内容	区の認定を受けた家庭福祉員(保育ママ)が、自宅において、2歳未満の乳児を対象に保育を実施します。区は、家庭福祉員に対して運営費等を補助します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
家庭福祉員の充実	家庭福祉員数	31人	39人	43人	45人	47人	拡充
	保育定数	80人	103人	115人	120人	125人	拡充

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【家庭福祉員の充実－家庭福祉員数】</p> <p>○新規に開設した家庭福祉員（1人）と池雪グループ保育補充者（1人）による増員を図りましたが、退職による減員（1人）があったため、家庭福祉員は42人（前年度比1人増）となりました。</p> <p>○家庭福祉員に、運営費等を助成しました。</p>	3	
<p>【家庭福祉員の充実－保育定数】</p> <p>○家庭福祉員の保育定数については、新規に開設した家庭福祉員（2人）と池雪グループ保育補充者（3人）の定員増を図りましたが、退職による定員減（2人）があったため、111人（前年度比3人増）となりました。</p>	3	
決算額	125,985,082 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○区が提供する保育スペースで家庭福祉員が児童受託を行う、グループ保育室については、平成25年5月に開設の古川グループ保育室（家庭福祉員数3人、保育定数9人）のほか、年度内に1室開設を予定しており、更なる制度の拡充に努めます。</p> <p>○自宅で保育を行う家庭福祉員については、引き続き各地区の民生委員・児童委員に紹介の依頼を行うほか、各施設に募集のチラシを配布するなど、家庭福祉員の増員を図ります。</p>	

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

計画事業名		認証保育所*支援						
主な取組内容		低年齢児保育や長時間保育などのニーズ*に応えるため、東京都独自の基準による認証保育所の開設を支援し、事業者に対して運営費及び開設準備経費の助成を行います。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
認証保育所支援	新規開設		8か所	2か所	2か所	3か所	3か所	支援継続
	認証保育所施設数		32か所	34か所	36か所	39か所	42か所	推進
	定員数		1,195名	1,262名	1,322名	1,412名	1,502名	推進

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取組み内容	進捗状況	
【認証保育所支援－新規開設】 ○認証保育所の開設を支援し、平成 24 年5月1日に「くがはらさくらさくほいくえん（定員 34 人）」、平成 25 年4月1日に「子供の部屋保育園（定員 31 人）」、「大森山王こども園（定員 40 人）」、「石川台らる保育園（定員 28 人）」を開所しました。	5	
【認証保育所支援－認証保育所施設数】 ○新規開設を進めた結果、平成 25 年 4 月現在 40 か所になりました。	5	
【認証保育所支援－定員数】 ○新規開設及び開所済み施設に定員拡充を図り、総定員数は 1,504 人（前年度比 151 人増）になりました。	5	
決算額	1,516,312,642 円	
次年度以降の主な取組み		
○引き続き、未来プランで掲げた目標数を上回る施設数の新規開設を目指します。 ○新規開設のほか、既存園の定員増等により、保育サービスの定員増を図り、待機児童解消に努めます。		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-2 子どもを健やかに育むまちをつくります

計画事業名		区立保育園の改築・改修の推進						
主な取組内容		耐震診断等の結果に基づき、老朽化した区立保育園を計画的に改築し、需要の高い低年齢児の定員を拡大、良質な保育環境を整備します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
改築・改修等の推進	改築基本計画		検討	策定	推進			継続
	鶺鴒の木保育園		工事	竣工				
	(仮称)新鶺鴒の木保育園(新設)		実施設計		工事	竣工		
	森が崎保育園		実施設計		工事	竣工		
	入新井保育園		実施設計	工事	竣工			

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【改築・改修等の推進－改築基本計画】 ○保育園改築等基本計画に基づき、森が崎保育園の改築を実施、池上第二保育園の耐震補強等改修工事に着手しました。また、六郷保育園改築工事の事前調査として、地盤調査、土壌調査を実施しました。	4	
【改築・改修等の推進－(仮称)新鶺鴒の木保育園(新設)】 —※	/	
【改築・改修等の推進－森が崎保育園】 ○改築工事が竣工しました。 ○定員を 30 人拡充(80 人→110 人)し、平成 24 年 10 月に開園しました。	4	
決算額	438,962,051 円	
次年度以降の主な取り組み	○計画に基づき、六郷保育園の実施設計、池上第二保育園の耐震補強等改修工事、矢口第二保育園及び田園調布保育園の耐震補強実施設計などを実施していきます。	

※ 当事業の取り組みは、平成 23 年度で完了しています(平成 24 年 3 月竣工、平成 24 年 6 月開園)。

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名	基礎学力の定着						
主な取組内容	算数・数学において内容のまとめごとと到達度確認プリントを使用し、到達状況を確実に把握しながら指導します。また、到達状況をチェックシートで児童・生徒・保護者に示しながら、習熟に応じたプリントにより家庭学習を支援します。併せて、学習指導講師による算数・数学・英語の補習教室を放課後や土曜日に実施し、基礎学力の定着を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
算数・数学到達度確認プリントによるチェック 習熟度別プリントによる家庭学習の支援学習 指導講師による算数・数学・英語の補習		実施					継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【算数・数学到達度確認プリントによるチェック、習熟度別プリントによる家庭学習の支援、学習指導講師による算数・数学・英語の補習】</p> <p>○算数・数学のステップ学習プリント、習熟度別プリントを全小中学校に配布し、実施しました。</p> <p>○全小中学校で放課後及び土曜補修教室を開催しました。土曜補修事業では算数・数学・英語の補修（各校 6 回以上、小学生延べ 22,935 人（前年度比 4,053 人増）、中学校延べ 7,323 人（同 1,099 人増））を実施しました。</p>	4	
決算額	94,671,938 円	
次年度以降の主な取り組み	○引き続き、算数・数学到達度確認プリントによるチェック、習熟度別プリントによる家庭学習支援、学習指導講師による算数・数学・英語の補習教室を実施します。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名		小中一貫教育の推進						
主な取組内容		各種小中一貫教育プログラムを策定・実施するとともに、小中学校の情報連携をさらに充実させ、小学校から中学校へのより円滑な接続と学習成果の向上をめざし、小中一貫教育を推進します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
小中一貫教育プログラムの実施	規範意識*向上プログラム							継続
	英語活動プログラム	検討	策定	実施				継続
	体力向上プログラム	検討	策定	実施				継続
新たな教育課題に関するプログラム検討	キャリア教育*、自然体験プログラム等	策定	実施					継続
情報連携の推進	指針の策定	策定	各関係機関の情報連携の推進					継続
教科・行事における連携の推進								継続

所管部局	教育総務部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【小中一貫教育プログラムの実施－規範意識向上プログラム】 ○全区立小中学校で、「規範意識向上プログラム」を道徳教育の計画に位置づけ、実施しました。	4
【小中一貫教育プログラムの実施－英語活動プログラム】 ○全区立小学校第 5・6 学年において、外国語活動プログラムに基づく外国語活動を実施しました。	4
【小中一貫教育プログラムの実施－体力向上プログラム】 ○「体力向上全体計画」に基づいた体力向上の取り組みを推進しました。	4
【新たな教育課題に関するプログラム検討－キャリア教育、自然体験プログラム等】 ○平成 23 年度に作成した自然体験プログラムに則り、小学校第 5・6 学年、中学校第 1 学年の移動教室を実施しました。	4
【情報連携の推進－指針の策定】 ○平成 22 年度に作成した「大田区における小中一貫教育の指針」に基づいて、小中一貫推進計画を作成し、各中学校区小中一貫教育を推進しました。 ○小中一貫教育モデル地区（志茂田中学校区）の研究発表会を実施し、研究成果を区立小中学校全校で共有しました。	4

<p>【教科・行事における連携の推進】</p> <p>○区教研小中連携研究部会、区教研小中一貫教育の会等、小中一貫教育に関わる取り組みを全区立中学校で実施しました。また、各校区において独自の取り組みを行いました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>481,415 円</p>	
<p>次年度以降の主な取り組み</p>		
<p>○各種小中一貫教育プログラムを実施、小中学校の情報連携を充実させ、小学校から中学校へのより円滑な接続と学習効果の向上をめざし、小中一貫教育を推進します。</p>		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名	ICT*教育の推進					
主な取組内容	電子機器の活用や各普通教室に校内LANを構築し、ICTを活用した教育の充実をめざします。そのため、ICT活用指導のモデル校を設置し、本区における情報教育の先端校として、区内に広く成果を共有します。					
(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
ICT活用教育のあり方検討						
地上デジタルテレビ（電子黒板）の活用	導入					継続
校内LANの構築					検討	継続
ICTモデル校実施					検討	継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【地上デジタルテレビ（電子黒板）の活用】 ○電子黒板の活用を推進するため、ICT活用研修を開催（参加教員数39人）しました。 ○小学校第5・6学年社会学科でデジタル教科書を活用しました。 ○中学校教科用図書地図のデジタル教科書の寄贈を受け全区立中学校へ配布し、区教研中学校社会化部会にてデジタル教科書の活用研修を実施しました。	4	
決算額	0円	
次年度以降の主な取り組み		
○地上デジタルテレビ（電子黒板）の活用をさらに進めるとともに、寄贈されたデジタル教科書の有効活用を図ります。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名		不登校施策の充実					
主な取組内容		適応指導教室*を必要な地域に増設し、在籍校との連携を強化しながら、不登校児童・生徒と保護者への支援を充実させます。					
(平成/年度)		21	22	23	24	25	26～30
適応指導教室の活動スペースの改善		蒲田校					
適応指導教室の増設	候補地検討						
	新規教室設置		1校		1校		完了
指導の充実(適応指導教室数)		2校	3校		4校		継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取組み内容	進捗状況	
【適応指導教室の増設－新規教室設置】 ○平成 25 年度中に、大森地区または調布地区に適応指導教室を新規開設するため、候補地選定を進めてきました。	4	
【指導の充実（適応指導教室数）】 ○ケース会議を開催し、関係者・関係機関とともに対象児童・生徒への対応を検討するとともに、組織的な対応を充実させました。 ○教育相談員による学校訪問を全小中学校で実施（各校 3 回）し、スクールカウンセラーの活用や関係機関と連携することを助言しました。	4	
決算額	8,828,031 円	
次年度以降の主な取組み		
○大森地区・調布地区への早期の適応指導教室開設に向けて、候補地の選定を進めていきます。 ○指導内容の充実については、引き続き年 3 回の学校訪問を実施し、在籍校との関係を強化、更に関係機関との連携により対象児童・生徒の早期在籍校への復帰を支援していきます。		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名	日本語指導教室の充実						
主な取組内容	日本語指導教室を小中学校で拡充し、日本語指導が必要な外国人児童・生徒や、海外から帰国した児童・生徒に日本語指導を行います。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
日本語指導教室(通級)	蒲田小学校教室	都認可	指導実施				拡充検討
	中学校指導教室	開設準備	認可開設	指導実施			
日本語指導の実施(学校派遣)		年60時間					継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取組み内容	進捗状況	
【日本語指導教室(通級)－蒲田小学校教室】 ○蒲田小学校で、教科学習等を充実させるために必要な日本語指導を小学生(20人、4～6年生)に実施しました。	4	
【日本語指導教室(通級)－中学校指導教室】 ○蒲田中学校で、教科学習等を充実させるために必要な日本語指導を中学生(23人、全学年)に実施しました。	4	
【日本語指導の実施(学校派遣・通級)】 ○小学生(58人)、中学生(22人)に、1人60時間の日本語初期指導を実施しました。	4	
決算額	17,117,700円	
次年度以降の主な取組み		
○蒲田小学校の通級対象学年を、現行の小学校4～6年生から小学校3～6年生に拡大し、日本語指導を実施します。 ○日本語の初期指導が必要な児童・生徒に対して1人年間60時間の初期指導を実施します。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名		学校施設の改築						
主な取組内容		良好な教育環境づくりを進めるとともに、今後、大量の需要が見込まれる学校施設等の改築に対応するため、計画的な改築を進めます。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
羽田中学校改築工事			工事	竣工				
学校施設の改築	基本計画		1校 (嶺町小)	検討	1校 (東六郷小)	2校 (志茂田小・中)	検討	継続
	基本設計			1校 (嶺町小)	1校 (嶺町小)	1校 (東六郷小)	3校 (東六郷小、志茂田小・中)	継続
	実施設計			1校 (嶺町小)	1校 (嶺町小)	1校 (東六郷小)	3校 (東六郷小、志茂田小・中)	継続
	改築工事				1校 (嶺町小)	1校 (嶺町小)	1校 (嶺町小)	継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取組み内容	進捗状況	
【学校施設の改築－基本計画】 ○志茂田小学校、志茂田中学校の改築に向けて、基本構想と基本計画の策定が完了しました。	4	
【学校施設の改築－基本設計、実施設計】 ○東六郷小学校改築の基本設計が完了し、実施設計に入りました。	4	
【学校施設の改築－改築工事】 ○嶺町小学校の校舎改築Ⅰ期工事が完了しました。	4	
決算額	1,784,739,475 円	
次年度以降の主な取組み		
○志茂田小学校・志茂田中学校は基本設計、実施設計を行います。 ○東六郷小学校は実施設計委託を進行し、年度後半から既存校舎の解体を行います。 ○嶺町小学校は既存校舎の解体に入り、年度終盤からⅡ期工事を行います。		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名	学校施設の緑化の推進						
主な取組内容	地球にやさしいまちづくりとともに、子どもたちの環境教育の充実を図るために、学校施設を活用した緑化を推進します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
壁面・屋上緑化*・校庭緑化等		4校 (湯塚小、 入新井第一小、 石川台中、 蓮沼中)	2校3か所 (徳持小、 羽田中)	2校 (久原小、 仲六郎小)	3校 (嶺町小、 雪谷小、 出雲中)	4校	継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取組み内容		進捗状況
【壁面・屋上緑化・校庭緑化等】 ○雪谷小学校の校庭芝生化（2,564 m ² ）及び嶺町小学校と出雲中学校の 屋上緑化（嶺町小学校 331 m ² 、出雲中学校 350 m ² ）を行いました。		4
決算額	94,334,789 円	
次年度以降の主な取組み		
○多摩川小学校の校庭芝生化工事、西六郷小学校の屋上・壁面緑化工事を実施します。		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-3 未来を担う子どもたちを育てます

計画事業名	学校運営システムの構築						
主な取組内容	広域イーサネット*を利用した教育委員会内ネットワークを構築し、各学校間で教材の共有、校務管理、時数管理等、校務のICT*化を図ります。また、情報の共有化による、調査・統計等の事務処理の効率化を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
ネットワークの構築		検討	→	構築	→	運用・調整	継続
校務事務のICT化		検討	→	→	実施	→	継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【ネットワークの構築】 ○昨年度構築完了した学校運営システム（教育委員会事務局、区立小中学校等 94 拠点を結ぶネットワーク）の運営・保守を実施しました。	4	
【校務事務の ICT 化】 ○事務事業改善推進委員会作業部会（2 回）と保健機能検討会（3 回）を開催し、校務支援システムの文書連絡機能運用課題及び保健管理機能の初期設定項目の検討を行いました。 ○小学校モデル校 9 校及び中学校全 28 校で、成績処理機能を活用して、通知表を作成しました。また、小学校モデル校 9 校以外の小学校 50 校でも、成績処理機能の活用準備として、通知表等の帳票作成を完了しました。	4	
決算額	336,267,912 円	
次年度以降の主な取り組み	○引き続き、学校運営システムの運用・保守を行います。 ○小学校全 59 校及び中学校全 28 校における成績管理機能を活用した通知表・指導要録等のシステム出力を行います。 ○事務事業改善推進委員会作業部会を開催します。 ○保健機能検討会を開催します。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします
 施策 1-1-4 のびのびと成長する子どもを見守ります

計画事業名	学童保育及びフレンドリーおおた事業の充実						
主な取組内容	小学校低学年では、学童保育を必要とするすべての子どもが入れる体制づくりのため、小学校や他施設を有効活用したフレンドリーおおた事業を充実し、待機児童の解消を図り、子どもたちの放課後の安全な居場所づくりを進めます。廃園後の区立幼稚園舎跡地を学童保育室等に活用し、学童保育の充実を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
区立幼稚園舎改築		工事竣工	開設		運営		継続
フレンドリーおおたの充実							継続

所管部局	こども家庭部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【区立幼稚園舎改築】 ○区立幼稚園跡施設を改修したおおたっ子ひろば（6 か所）を運営しました。おおたっ子ひろばの全登録学童延べ数は 105,496 人（前年度比 5,205 人減）、一般利用が延べ 65,703 人（前年度比 6,277 人減）でした。	4	
【フレンドリーおおたの充実】 ○小学校内に設置のフレンドリーおおた（9 か所）の運営をしました。フレンドリーおおたの全登録学童延べ数は 112,621 人（前年度比 4,262 人増）でした。 ○北糺谷小学校内に「フレンドリー北糺谷」を開設（平成 26 年 4 月）することを計画しました。	4	
決算額	927,539,970 円	
次年度以降の主な取り組み	○北糺谷小学校内「フレンドリー北糺谷」（最大受入数 40 人）について、平成 26 年 4 月開設に向け準備をしていきます。	

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくります

計画事業名		健康づくりの推進						
主な取組内容		区民の主体的な健康づくりをめざして計画を策定し、区民、事業者*や区が連携して健康事業を実施することで、区民がすこやかに暮らせるまちづくりを推進します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
健康づくりの推進	庁内検討会の開催							継続
	おおた健康プラン		策定	推進				継続
	自主的な活動支援		企画	推進				継続
健康診査・各種検診・健康相談の実施								継続

所管部局	保健所
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
<p>【健康づくりの推進－庁内検討会の開催、おおた健康プラン】</p> <p>○次期「おおた健康プラン」策定に向けた区民アンケートを実施（発送 4,000 件、回答 1,682 件、回収率 42.1%）しました。</p> <p>○「おおた健康プラン」推進会議にて、区民アンケート結果およびプランの進捗状況報告、次期計画についての意見交換を行いました。</p>	4
<p>【健康づくりの推進－自主的な活動支援】</p> <p>○実践編パンフレット「私の健康づくり大・作・戦！」を配布し、区民の自主的な健康づくりを支援しました。</p> <p>○パンフレットを利用した健康づくり講演会（18 回、参加者 704 人、配布数 2,082 冊）を開催しました。</p> <p>○区民の健康づくり活動を相互に結びつけることを目的とした健康づくりネットワーク（27 団体登録中）を継続し、グループ交流会を実施しました。ネットワークグループと共同で、自主的な健康づくり支援として「私の健康づくり大・作・戦！おおた健康プラン実践編パンフレット別冊 健康ウォーキングマップ」池上本門寺編・旧東海道美原通り編を作成しました。</p>	4

<p>【健康診査・各種検診・健康相談の実施】</p> <p>○乳がん検診車の配車場所として、池上会館・産業プラザに加え、新たに電子工学院専門学校・東糶谷防災公園を設置しました。</p> <p>○大腸がんクーポン検診を新たに実施しました（受診者数 2,819 人）。</p> <p>○緑内障検診では、対象者に 65 歳を追加し実施しました（受診者数 2,412 人）。</p> <p>○各検診実施機関を通じて、肺がん検診・喉頭がん検診受診者へ禁煙パンフレットを配布（8,600 枚）し、禁煙の啓発に努めました。</p>	4
---	---

決算額	1,653,305,595 円
-----	-----------------

次年度以降の主な取り組み

<p>○おおた健康プラン（第二次）の策定のため、乳幼児健診・両親学級アンケート、外国人区民に対する健康に関する調査、健康に関する地域診断実施等を実施します。</p> <p>○「私の健康づくり大・作・戦！おおた健康プラン実践編パンフレット別冊 健康ウォーキングマップ」3 地区と栄養分野のパンフレットをさらに新規に作成します。</p> <p>○女性の健康づくり講演会等を開催します。</p> <p>○また、健康づくりネットワーク登録を継続し、健康づくりグループ相互の情報共有を推進し、健康づくり情報を様々な媒体により区民に発信します。</p> <p>○女性特有のがん検診の受診率が低いため、受診率向上をめざし、乳がん及び子宮がんの検診車による検診を、休日を中心に同じ場所で 2 種類の検診車を並べて実施します。</p> <p>○子宮がん区検診の実施期間を 1 か月延長し、7 月から翌 1 月までとします。</p> <p>○引き続き、肺がん検診・喉頭がん検診の中で禁煙パンフレット配布し、啓発に努めます。</p>

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくります

計画事業名		食育*の推進						
主な取組内容		区民の健康づくりの土台となる「食」に視点をおき、日々の生活の中で、誰もが食に関心を持ち、自らの健康づくりに役立てられるよう食育の推進に取り組みます。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
食育検討会の開催								継続
食育基本方針の策定	食育基本方針の策定・推進		策定	推進				継続
食の大切さの普及啓発	食育フェアの開催							継続
	地域活動栄養士会等の支援・連携							継続
	ヘルシーメニュー集の作成配布							継続
	食に関する情報提供					ホームページの活用		継続

所管部局	保健所
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【食育検討会の開催】 ○食育検討会（2回）を開催し、おおた健康プランの食育推進等に関する検討を行いました。	4
【食育基本方針の策定－食育基本方針の策定・推進】 ○各年度テーマを決め、各部署の事業の中で、食の重要性を伝えています。平成 24 年度は「伝えよう、食の楽しさ、大切さ」を統一テーマとしました。 ○食育推進基本方針に掲げる食育フェア等の取り組みを実施することにより、基本方針を推進しました。	4
【食の大切さの普及啓発－食育フェアの開催】 ○食育フェア（来場者 665 人）を開催し、パネル展示、レシピ配布、ヘルシーメニュー（朝食メニュー）集の配布等を行いました。	4
【食の大切さの普及啓発－地域活動栄養士会等の支援・連携】 ○テーマを「行動科学に基づいた食生活支援」に設定し、地域活動栄養士会等への講演会（参加者 47 人）を開催しました。	4

<p>【食の大切さの普及啓発－ヘルシーメニュー集の作成配布】 ○バランスのとれた朝食を食べることを促すため「ヘルシーメニュー（朝食メニュー）集」（5,500部）を作成し、3歳児健康診査、食育フェアで配布しました。</p>	4
<p>【食の大切さの普及啓発－食に関する情報提供】 ○親子食育教室「レストランシェフキッズ」（参加者27組54人）を東京誠心調理師専門学校と共催しました。 ○食育フェアの開催内容の報告等、ホームページの充実を図るとともに、平成24年4月より「健康バランスメニュー」の掲載を開始しました。</p>	4
<p>決算額</p>	459,207円
<p>次年度以降の主な取り組み</p>	
<p>○食育に関する項目を設けた健康づくり実践編パンフレットを活用するとともに、関係機関と連携を図りながら食育基本方針を推進します。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくります

計画事業名	地域医療連携の推進						
主な取組内容	救急医療だけではなく、小児科や産科などの一般医療、歯科医療及び災害医療においても、地域の病院や診療所が医療機能を分担し、かつ連携しながら治療を行う必要があります。そのためには、関係機関が一体となった連携体制を構築することにより、医療機関が抱える諸問題を軽減し、区民に効率的で質のよい医療が提供できる体制の整備を推進します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
医療機関等の現状把握と整理	分野別課題の整理・検討・対応策の実施	→					継続
医療情報の提供		→					継続

所管部局	保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【医療機関等の現状把握と整理－分野別課題の整理・検討・対応策の実施】</p> <p>○医療関係機関と連携し、区民に効率的で質のよい医療が提供できる体制の整備を目的として、以下の取り組みを行いました。</p> <p>○入院医療協議会の活動（入院医療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院医療協議会講演会の実施（モンスターペインシエント対策） ・入退院調整担当者部会、看護師専門部会、院内感染対策専門部会を開催 <p>○小児救急医療の充実（小児医療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田区小児救急整備事業（医師会事業）、支援事業（区補助事業）の実施 ・大田区小児医療連携推進協議会の開催 ・小児救急医療アンケートの実施 <p>○共有セーフティスコアの試験運用（周産期医療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田区版「妊婦セーフティスコア（評価された妊娠・出産のリスクを目安に主治医と相談しながら、妊婦自身の健康管理や、母体・胎児に適した分娩施設を選ぶために役立つもの）」の検証 <p>○在宅医療連携推進事業の実施（在宅医療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回在宅医療連携推進協議会全体会の実施（講演、パネルディスカッション等） <p>○災害時緊急連絡体制の確立（災害医療分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大田区地域防災計画の修正（災害医療分野の大幅改定） 	4	

<p>【医療情報の提供】</p> <p>○小児医療等の区民公開講座（共催 8 回、参加者延べ 1,346 人）を開催しました。</p> <p>○各種医療機関を広く区民に紹介するため、「おおた医療BOOK」（平成 21 年度）、「病院ガイドおおた」（平成 22 年度）を、1 階戸籍住民課窓口、保健衛生課窓口、OTAふれあいフェスタ等で配布しました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>119,395,038 円</p>	
<p>次年度以降の主な取り組み</p>		
<p>○新たに大田区災害医療連携会議を立ち上げ、病院、医療機関、医療関係機関、警察、消防署等と連携し、災害時における緊急医療救護所の開設・運営や、医薬品の備蓄、救急体制などについて、具体的な整備を進めます。</p>		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくります

計画事業名		食の安全確保						
主な取組内容		食中毒の発生頻度や発生した場合の患者数やリスク*を考慮した重点監視指導を実施します。普及啓発協力団体との連携、食の安全についての意見交換会等の実施により、日頃から区と区民の間で食品危害情報を共有し、危害発生時には迅速な情報提供の体制を整え、健康危機管理体制の充実に努めます。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
大規模給食施設等へのより高度な衛生管理手法の導入(新たに取り組む施設数 年4施設増)			13施設	17施設	21施設	25施設	29施設	継続
健康危害情報の共有化	ホームページによる健康危害情報の提供							継続
	電子メールによる情報提供		準備	実施	拡充			継続
普及啓発団体との連携(年4団体増)			24団体	28団体	32団体	36団体	40団体	継続

所管部局	保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【大規模給食施設等へのより高度な衛生管理手法の導入（新たに取り組む施設数 年 4 施設増）】 ○重点監視指導を推進し、より高度な衛生管理手法を導入した施設が 4 施設増加（集団給食 3 施設、仕出し弁当 1 施設）し、25 施設（集団給食 17 施設、仕出し弁当 8 施設）となりました。	4	
【健康危害情報の共有化ーホームページによる健康危害情報の提供】 ○ボツリヌス食中毒に関する内容を一部変更して、迅速な情報提供を行いました。 ○新たに別のコンテンツを作成することで、住民祭や学園祭などで食品を取り扱う場合の説明をわかりやすくしました。	4	
【健康危害情報の共有化ー電子メールによる情報提供】 ○大田区保健所情報メールの周知に努め、メールを受信する登録団体を、19 団体から 26 団体に増やし、健康危害及び食品安全に関する情報を発信（12 回）しました。	4	

<p>【普及啓発団体との連携（年4団体増）】 ○引き続き普及啓発団体との連携に努め、連携する団体が75団体となりました（前年度比3団体減）。</p>	<p>4</p>
<p>決算額</p>	<p>20,978,026 円</p>
<p>次年度以降の主な取り組み</p>	
<p>○「電子メールによる情報提供」の登録団体を4団体増やし、累計30団体を目指します。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-1 誰もが健康に暮らせるまちをつくります

計画事業名		健康危機管理体制の整備・充実						
主な取組内容		「大田区健康危機管理計画」に基づき、様々な健康危機に適切な対応ができるよう、マニュアルや体制の整備、訓練など実践的取り組みの充実を図ります。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
大田区健康危機管理計画の推進	健康危機管理マニュアルの整備・推進		整備		見直し		見直し	継続
大田区新型インフルエンザ対策行動計画の推進	各種訓練の実施							継続
	医療物資備蓄の推進							継続

所管部局	保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【大田区健康危機管理計画の推進－健康危機管理マニュアルの整備・推進】 ○健康危機管理マニュアルの改定に向け、これと密接な関連性を持つ仮称新型インフルエンザ等対策行動計画の改定についての検討準備を開始しました。 ○前年度に改定した感染症対応マニュアルの運用を開始しました。実際の運用に伴い内容を随時更新し、新たな記録シートを追加作成しました。 ○健康危機管理マニュアルに基づいた、事例研修を行いました。	4	
【大田区新型インフルエンザ対策行動計画の推進－各種訓練の実施】 ○大田区新型インフルエンザ等対策本部条例及び本部条例施行規則を整備し、公布しました。 ○大田区新型インフルエンザ対策行動計画の改定に際し、効果的な訓練の手法が取り入れられるよう、患者搬送訓練（成育医療センター～荏原病院）や東京空港検疫所の訓練等に参加し、参考事例の把握に努めました。	4	
【大田区新型インフルエンザ対策行動計画の推進－医療物資備蓄の推進】 ○備蓄在庫のマスクについて、平常時の適正在庫量を見直し、保存年限の長いものの一部を、区の高齢者施設等で活用することとしました。	4	
決算額	494,247 円	
次年度以降の主な取り組み		
○国や東京都の新型インフルエンザ等対策行動計画と整合性を持った実効性の高い大田区版新型インフルエンザ等対策行動計画を策定します。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-2 ユニバーサルデザインのまちをめざします

計画事業名	ユニバーサルデザイン*のまちづくり基本方針の策定・推進						
主な取組内容	区民や区を訪れる人が安全で円滑に移動できるまちを築くための考え方や、方策、手段等を盛り込んだ基本方針を策定します。策定後は、それを実現するためのアクションプランを定め、ユニバーサルデザインのまちをめざします。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定	ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定	検討	策定	推進			継続
	アクションプランの策定・実施	策定	実施				継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定－ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定】</p> <p>○おおたユニバーサルデザイン（UD）のまちづくり区民推進会議を開催（2回）しました。また、同会議のもとに、UD推進部会、UD普及部会を設置し、区民等とユニバーサルデザインのまちづくりの普及、推進等について検討しました。</p>	4	
<p>【ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定－アクションプランの策定・実施】</p> <p>○おおたユニバーサルデザインのまちづくりパートナー（UDパートナー）登録制度を設け、区民 42 人を登録しました。UDパートナーによる施設点検（鶉の木特別出張所、大田区体育館、蘇峰公園、他 13 施設）、UDパートナーを対象とした研修（2回）を実施しました。</p> <p>○東京都のユニバーサルデザイン福祉のまちづくり事業のモデル地区に指定されている山王、馬込、池上地区では、UD 教育の推進等の総合学習支援モデル事業を小学校で実施しました。</p>	4	
決算額	3,103,790 円	
次年度以降の主な取り組み		
<p>○おおたユニバーサルデザインのまちづくり区民推進会議等を開催し、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。</p> <p>○おおたユニバーサルデザインのまちづくりパートナー（UDパートナー）の募集・登録を進め、施設の点検等を実施します。</p> <p>○東京都の「ユニバーサルデザイン福祉のまちづくり事業」の指定地区となった山王、馬込、池上地区において、ユニバーサルデザインのまちづくりモデル事業を推進します。</p>		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-2 ユニバーサルデザインのまちをめざします

計画事業名	誰にもわかりやすいサイン整備						
主な取組内容	障がいなどのハンディキャップを持つ人や外国人、大田区を始めて訪れる人などに、わかりやすく、利用しやすい案内や表示などのサインを整備し、移動しやすいまちをつくります。 整備にあたっては、ユニバーサルデザインの視点とともに、大田区の魅力をアピールできるよう観光の視点も加え取り組みます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
誰にもわかりやすいサイン整備	サイン整備計画の策定	策定					
	サイン整備の推進						継続

所管部局	計画財政部（旧経営管理部）	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【誰にもわかりやすいサイン整備－サイン整備の推進】</p> <p>○区役所本庁舎地下駐車場出入庫口及び場内の誘導案内サインを更新しました。表示を大きくわかりやすくし、一部にはピクトグラム表示や外国語併記を行い、車往来時の安全性を高めました。</p> <p>○駐輪場入口及び出口の案内サインをピクトグラムと外国語併記に変更するなどにより、出口からの乗り入れを防ぐとともに、入口の場所がすぐにわかるようにしました。</p> <p>○「大田区サイン基本計画」に掲げる事業について、平成 23 年度中の取り組み実績をとりまとめ、ホームページ等で公表しました。</p>	4	
決算額	9,450,931 円	
次年度以降の主な取り組み	○引き続き、サイン基本計画の進行管理を行い、計画に掲げる事業の取り組み実績をとりまとめ、公表します。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-3 障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくります

計画事業名	(仮称)障がい者総合サポートセンターの設置						
主な取組内容	障がい者(児)の地域における自立した生活を支援するため、相談や就労支援などを総合的にサポートする機能を備えたセンターを開設します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
(仮称)障がい者総合サポートセンターの設置		基本計画策定	調査 基本設計	実施設計	工事		竣工運営 相談支援、 自立支援・ ネットワーク、 交流支援、ボラン ティアセン ター、家族 支援等の充 実
地域自立支援協議会等との連携							継続

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
<p>【(仮称) 障がい者総合サポートセンターの設置】</p> <p>○基本設計・実施設計はともに完了しました。</p> <p>○「中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例」に基づく説明会を実施しました。</p> <p>○UD点検会を実施し、各障がい者団体に対し、個別に図面と模型を用いて設計内容を説明し、意見聴取しました。</p> <p>○サポートセンター実施事業の具体的な実施方法や運営方法の検討について、外部委員による検討委員会（7回）を開催しました。</p> <p>○サポートセンター設置についての進捗状況を周知するためのパンフレットを作成しました。</p>	4

<p>【地域自立支援協議会等との連携】</p> <p>○自立支援協議会は、地域の障がい福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。同協議会の地域資源評価開発部会、運営会議において検討を行い、サポートセンターを核にした地域住民と障がいのある人との交流などの意見をまとめ、第3回全体会にて発表しました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>37,595,740 円</p>	
<p>次年度以降の主な取り組み</p>		
<p>○平成 25 年 7 月からサポートセンターの建設工事を開始します。</p> <p>○相談支援事業に関わる事業者の選定に係る委員会を設置し、平成 26 年度当初から相談支援事業者が、支援体制の準備や関係機関との会議へ参加することなどにより、運営開始後すぐに円滑な相談支援を開始できるよう準備を進めます。</p> <p>○引き続き、サポートセンター実施事業の具体的な実施方法の検討を進めます。</p>		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-3 障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくります

計画事業名	就労支援の充実						
主な取組内容	これまで培ってきた就労支援のネットワークをさらに発展させ、ハローワーク、区内特別支援学校*、障がい福祉施設や関係機関と連携し、障がい者の一般就労をさらに促進します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
多様な障がいに対応した就労相談の推進							(仮称)障がい者総合サポートセンターへの事業統合
就労の促進			各年30人から70人				
定着支援(累計)		250人	300人	350人	400人	450人	
就労支援ネットワーク構築	調査・研究シンポジウムの実施	検討・協議	構築(精神)	構築(発達・高次脳機能)	連携		
地域自立支援協議会等との連携							

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【多様な障がいに対応した就労相談の推進】 ○障がい者の一般就労を促進するため、就労相談（相談件数 7,347 件、前年度比 1,007 件増加）に対応しました。 ○新規相談は 169 件（前年度比 4 件増加）であり、障がい別の割合は知的障がい 60 件、精神障がい 52 件、身体障がい 24 件、発達障がい 19 件、高次脳機能障がい等が 13 件、その他が 1 件でした。	4
【就労の促進】 ○就労支援ネットワークを活用して就労促進支援を行い、54 人（障がい者就労支援センター15 人、特別支援学校新卒 25 人、通所施設 14 人）が新規に就労しました。 ○職場体験実習（実習期間：1 日～3 か月間）を実施し、延べ 118 人（一般企業での実習が 27 社で 50 人、大田区役所内での実習が 2 課で 68 人）が参加しました。	4

<p>【定着支援（累計）】</p> <p>○仕事を継続できるよう、会社訪問、就業生活相談、仲間との余暇の場の提供等を行いました。</p> <p>○定着支援者数は、437人（障害者就労支援センター301人、通所授産施設等117人、「たまりば事業（障害者自助活動支援事業）」のみ利用18人）でした。</p>	5	
<p>【就労支援ネットワーク構築】</p> <p>○大田区就労促進担当者会議（12回）を実施し、おもに身体障害・知的障害に対する就労支援ネットワークの強化を図りました。</p> <p>○大田区自立支援協議会精神障がい者の就労支援部会（10回）に参加し、主として精神障がい・発達障がい・高次脳機能障がいの就労支援ネットワーク構築について検討しました。</p> <p>○大田区自立支援協議会精神障がい者の就労支援部会が主催して、精神障がい者を対象とした一般企業への職場体験実習を実施しました（3企業へ8人が参加）。</p>	4	
<p>【地域自立支援協議会等との連携】</p> <p>○上記の精神障がい者の就労支援部会を大田区地域自立支援協議会の専門部会として位置づけ、大田区地域自立支援協議会全体会にて検討の報告（2回）を行いました。</p> <p>○精神障がい者と支援者向けの職場体験実習報告会を実施し、精神障がい者に対する就労促進支援について当事者とともに学ぶ機会を設けました（参加者60人、うち当事者23人）。</p>	4	
決算額	10,603,004 円	
次年度以降の主な取り組み		
<p>○従来の就労支援ネットワークを活用するとともに、新規参入の移行支援事業所や病院デイケア等就労支援機関との連携を築きながら、就労の促進、就労の定着支援による雇用の継続を図ります。</p> <p>○引き続き、中小企業への就労をめざした啓発事業と丁寧な職場開拓を行うと同時に、平成25年4月の障害者雇用率改定に対応した就労促進を行います。</p>		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-3 障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくります

計画事業名	地域生活移行支援(グループホーム*等)の充実						
主な取組内容	親なき後の障がい者や介護者の高齢化・疾病時に障がい者の居住の場を確保するため、グループホーム・ケアホームに対して整備費補助及び区の未利用地の貸付等を行います。また、自立生活訓練や地域で自立生活を行っている障がい者の生活支援の場の整備や、地域生活移行支援コーディネート*体制の整備を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
グループホーム、ケアホーム整備支援							継続
自立生活訓練や生活支援の場の整備		検討	整備				継続
地域生活移行支援コーディネート体制の整備		検討	整備				拡充

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【グループホーム、ケアホーム整備支援】 ○整備支援を行い、2施設が平成 25 年 3 月に竣工しました（大森西二丁目：定員 4 人、運営法人は社会福祉法人大田幸陽会、池上七丁目：定員 4 人×2ユニット、運営法人は東京都知的障害者育成会）。	4
【自立生活訓練や生活支援の場の整備】 ○様々な障がい特性に応じた自立生活訓練について、つばさホーム前の浦（自立生活訓練施設、運営：社会福祉法人大田幸陽会）と協議を実施しました。 ○つばさホーム前の浦の緊急一時保護事業の利用者に対して特別介護人を派遣することで、利便性の向上を図りました。	4

<p>【地域生活移行支援コーディネーター体制の整備】</p> <p>○前年度に引き続き、精神科病院に1年以上入院している精神障がい者について、退院後安定した地域生活を送ることができるよう、入院中から退院準備に向けての支援や、退院後の治療中断防止等の支援を行う地域生活移行支援コーディネーターを1人配置し、23人が利用しました。</p> <p>○地域生活安定化支援調整会議（3回）を開催し、支援の進捗状況について確認するとともに、障害者自立支援法改正による変化や需要の増大を見据え、区と事業者の連携円滑化について検討しました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>29,825,500 円</p>	
<p>次年度以降の主な取り組み</p>		
<p>○障がい者の地域移行に向け、グループホーム・ケアホームの設置促進のために、継続して整備費を助成します。</p> <p>○障がい者の地域移行が進むように、自立訓練施設の利用の促進を引き続き図っていきます。</p> <p>○引き続き、精神障がい者の地域生活へ移行できる支援体制を整備していきます。</p>		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-3 障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくります

計画事業名	ふれあい広場事業の充実						
主な取組内容	障がい者相互の参加交流とより幅広い区民参加を促進するため、「しょうがい者の日のつどい」の開催方法を検討します。また、新たな交流促進の場として(仮称)障害者総合サポートセンターで高齢者や子ども等を含めた幅広い区民とのふれあい・交流の場づくりを検討します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
しょうがい者の日のつどいの実施		つどいの実施開催方法の検討	新方式のつどいの開催				継続
福祉施設まつりの実施							継続
障害者福祉強調月間の実施							継続
(仮称)障がい者総合サポートセンター交流事業の実施						検討	実施

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【しょうがい者の日のつどいの実施】</p> <p>○しょうがい者の日のつどい（参加者 4,000 人）を開催しました。</p> <p>○開催に向けて、大田区障害者の日のつどい実行委員会設置要綱に基づき、各障害者団体、民生・児童委員協議会、少年少女団体協議会等の代表 20 人で構成される実行委員会（6 回）、事業の円滑な進行を図るために、33 人の福祉施設職員等で構成される準備委員会（2 回）及び体育館見学会（1 回）で検討を重ねました。</p> <p>○新会場（大田区総合体育館）での開催となり、トランポリン、ピアノコンサート、阿波踊り等、会場の広さを活かした参加型のプログラムを多く取り入れ、幅広く区民が参加できるよう企画しました。</p>	4	
<p>【福祉施設まつりの実施】</p> <p>○大森東福祉園、こども発達センターわかばの家等の施設で、合同開催を含め 16 回の福祉施設まつりを開催しました。</p>	4	

<p>【障害者福祉強調月間の実施】</p> <p>○障害者福祉強調月間を実施し、しょうがい者巡回パネル展（3 か所、区役所本庁舎、大田総合体育館、アトレ大森）やしょうがい者文化展（出品者 433 人）を開催しました。</p> <p>○しょうがい者巡回パネル展では、各障がい者施設の通所者が作成に携わることができる参加型とし、施設紹介や施設のおまつりの様子等をパネルにして展示しました。また、広く区民にご覧いただける、掲示場所を民間施設も含めて拡大しました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>6,273,804 円</p>	
<p>次年度以降の主な取り組み</p>		
<p>○しょうがい者の日のつどいについて、参加動向、アンケート等により実施方法の見直しを行いながら進めていきます。</p> <p>○引き続き、福祉施設まつりを開催し、地域との交流を積極的に図ります。</p>		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

計画事業名		生涯学習*リーダーの育成						
主な取組内容		区民の学習成果を活かし、区民による主体的な学習・スポーツ活動や地域づくりにつなげていくために必要な人材育成を行います。講座や講習会の実施のほか、区民大学等の企画運営への参画、自主講座等の支援を通じて人材育成を行い、将来的には区民が互いに意欲や力を活かした主体的な活動に発展させることができるように取り組めます。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
生涯学習リーダーの育成	生涯学習プランナー講座の実施							継続
	コーディネーター養成講座の実施							継続
区民の主体的学習の支援	区民参加型企画運営講座の開催							継続
	区民による自主講座等の開設支援							継続
地域スポーツリーダーの育成	地域スポーツリーダー講座の実施							継続
	地域スポーツクラブの運営支援							継続
青少年リーダー講習会の実施								継続
地域活動ステップアップ講座の実施								継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【生涯学習リーダーの育成－生涯学習プランナー講座の実施、コーディネーター養成講座の実施】</p> <p>○生涯学習プランナー講座とコーディネーター養成講座を統合し、生涯学習人材養成講座「みつける情報 生み出す企画 ここから発信！～仲間とアイデアをカタチに～」(全9回、参加者 17 人)を開催しました。参加者が暮らしや地域から問題意識を掘り起こし、共有しながら課題を見つけ講座を組み立てることを実践的に学習する内容としました。</p>	4	

<p>【区民の主体的学習の支援－区民参加型企画運営講座の開催】</p> <p>○区民大学のうち、企画会及び区民参加型企画運営講座として、①「20・30代パワーアップセミナー～こんなトコ（地域）にもキッカケが！～」、②「『首都直下型地震』を生き残る～3.11から学ぶ～」、③「みんな1人じゃない～人との“ちがい”を障がいにならない地域をめざして～」を開催しました（3講座、計19回、参加者131人）。これらの講座は生涯学習プランナー、コーディネーター等養成講座修了者及び公募企画員（24人）が企画運営しました。</p> <p>○生涯学習リーダー企画講座として、①「地域コミュニケーションの再生を考える」、②「あなたもまちの学校の先生に～子どもたちとワクワク・ドキドキ教育を！」、③「悔いを残さない終わり方～今、楽しく考えましょう～」を開催しました（3講座、計19回、参加者140人）。これらの講座は、生涯学習リーダー（26人）が企画運営しました。</p>	4
<p>【区民の主体的学習の支援－区民による自主講座等の開設支援】</p> <p>○地域講座を実施した団体等が経験を活かして自主的に講座を実施できるよう相談対応や情報提供等を行いました。</p> <p>○生涯学習相談の中で区民の学習ニーズを把握し、ニーズの高いパソコン講座の開設について、関連団体との情報交換を行いました。</p>	4
<p>【地域スポーツリーダーの育成－地域スポーツリーダー講座の実施】</p> <p>○地域スポーツクラブの運営及び指導者の育成を図ることを目的に、地域スポーツクラブ指導者養成講習会を開催（3回、参加者17人）しました。</p>	4
<p>【地域スポーツリーダーの育成－地域スポーツクラブの運営支援】</p> <p>○大森、蒲田地区において、地域住民が主体となって運営する地域スポーツクラブの設立支援を行いました。</p> <p>○調布地区の「田園調布グリーンコミュニティー」（平成23年3月設立）については、地域へのPRや情報提供等の運営支援を行いました。</p>	4

<p>【青少年リーダー講習会の実施】</p> <p>○「楽しく子どもたちに伝えたい、自分を守る方法－19 のサバイバル術－」をテーマに、「青少年指導者セミナーⅠ」（5 回（うちキャンプセミナー1 回）、参加者 15 人）を実施しました。</p> <p>○「OTA の次代の担い手となる子どもや若者を、いかにして支援していくかを考える」というテーマで「青少年指導者セミナーⅡ」（4 回、参加者 22 人）を実施しました。</p>	4
<p>【地域活動ステップアップ講座の実施】</p> <p>○「やさしい社会教育概論」（参加者 15 人）、「一人ひとりが主役になって～団体・サークルのチカラをつけよう～」(参加者 12 人) を開催しました。これらの講座は、団体活動の意義や活動成果を地域に活かすために学びあう内容としました。</p>	4
<p>決算額</p>	923,742 円
<p>次年度以降の主な取り組み</p>	
<p>○人材育成講座を実施し、講座修了者の活動支援を引き続き行います。</p> <p>○地域の学習課題やニーズを掘り起こし、区民参画型企画運営講座の充実を図ります。</p> <p>○区民による自主講座の開設については、相談対応や情報提供の側面から支援します。</p> <p>○地域スポーツクラブ設立の環境醸成のために必要な人材育成を図るために養成講座を開催します。</p> <p>○調布地区の地域スポーツクラブについて、一定期間支援を行うとともに、大森、蒲田地区での設立支援も継続します。</p> <p>○地域の青少年活動に関わる指導者等の育成と資質の向上を図るため、区内在住・在勤・在学の青少年教育の指導者や協力者として活動している方及びこれから活動しようとしている 16 歳以上の方を対象に開催します。</p> <p>○地域活動ステップアップ講座については、社会教育関係団体等が地域につながるようになるための講座を実施する予定です。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

計画事業名	*生涯学習センターの整備						
主な取組内容	公共施設を活用し、生涯学習・スポーツ活動等の情報提供やコーディネート*機能を持つ生涯学習センターを整備します。 このセンターを拠点として、生涯学習リーダー・スポーツリーダー間の情報の共有化やネットワーク化を進め、区民と協働*で生涯学習・スポーツ活動等を推進します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
生涯学習センターの整備		検討・生涯学習相談会等の実施				開設・運営	

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【生涯学習センターの整備】 ○生涯学習相談会（15回、来場者延べ895人、相談件数202件）を開催しました。 ○生涯学習相談会をはじめ、情報発信、講座の企画運営等について、区民（生涯学習リーダー等）と共同で実践的に進めることができました。	4	
決算額	229,697 円	
次年度以降の主な取り組み		
○引き続き、生涯学習センターの機能や事業等について検討します。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

計画事業名		スポーツ施設の整備(大田区総合体育館の整備)					
主な取組内容		「みるスポーツ、するスポーツ」を基本コンセプト*とした、大田区総合体育館を建設し、区民の生涯スポーツの拠点とします。					
(平成/年度)		21	22	23	24	25	26～30
大田区総合体育館の整備	解体工事	完了					調布地区体育館整備調査・検討
	建設工事	着工	工事	完了			
	事業の実施		指定管理者*の選定	開館準備	事業実施		継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【大田区総合体育館の整備－事業の実施】</p> <p>○平成 24 年 6 月 30 日、計画どおり大田区総合体育館を開館しました。オープニングイベントは、男子バスケットボールの国際試合全日本 vs チャイニーズタイペイを開催しました。</p> <p>○8 月には卓球の小学生全国大会、バレーボールの中学生全国大会も開催されました。それ以降も、バレーボールやバスケットボールなど各競技のトップレベルの試合や大会が定期的で開催されています。</p> <p>○区民の健康をスポーツで支えるスポーツ教室を開催（1,746 教室、参加者延べ 13,198 人）しました。</p> <p>○来館者数の合計は、214,479 人に達しました。</p>	4	
決算額	308,589,998 円	
次年度以降の取り組み		
<p>○多様なスポーツ教室等を開催するなど、区民の健康をスポーツで支える施設運営を行います。</p> <p>○各競技の最高峰の試合や大会等を誘致し、”みるスポーツ”でスポーツ振興を図ります。</p>		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

計画事業名	図書館の改築・改修						
主な取組内容	「均質で公平な図書館サービス」を実現するため概ね徒歩15分圏内に1館、計16館を配置してきました。今後、老朽化の進んでいる図書館改築・改修を進めるにあたっては、「地域特性」を活かした「情報拠点」として施設機能の向上を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
入新井図書館の改築	内装工事	内装設計	工事				
	開館・運営		準備	開館			継続
図書館の改築・改修		検討	推進				継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【入新井図書館の改築－開館・運営】</p> <p>○お話し会（56 回、参加者 2,185 人）やリサイクル市（752 冊提供）の開催等、地域ボランティアと連携し、サービスの向上を図りました。</p> <p>○入新井図書館内で大田区中小企業診断士会による無料相談会を開催しました（毎週土曜日午後 1 時から 6 時まで）。</p>	4	
<p>【図書館の改築・改修】</p> <p>○六郷図書館の改築計画を推進しました。また、その他改築を要する図書館の検討を行いました。</p> <p>○改修については現状調査を行い、以下のとおり計画的に改修を実施し、機能維持を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上図書館屋上防水工事 ・久が原図書館空調機取替工事 ・六郷図書館空調設備機能保持工事 ・下丸子図書館屋上防水工事、照明改修工事。火災警報機及び放送設備取替工事 	4	
決算額	93,536,800 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○入新井図書館の運営については、今後も地域との連携を密にし、さらなるサービスの向上を図ります。</p> <p>○六郷図書館については、引き続き平成 25 年度実施設計を行い、具体化を進めます。</p> <p>○建築年時の特に古い図書館については、用地の取得を目指し調査を進め、改築の方向で検討を続けます。</p> <p>○老朽化の進んだ図書館については、優先度を考慮し計画的に維持補修に努めます。</p>	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-4 生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります

計画事業名	馬込文士村*資料の活用						
主な取組内容	大田区立郷土博物館で保管している、かつて馬込文士村に居住した文士の関連資料を整理し、大田区の歴史・文化の継承や観光資源として活用を図ります。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
馬込文士村展示リニューアル		実施	活用				継続
関係資料の地域資産化・活用							継続

所管部局	教育総務部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【馬込文士村展示リニューアル】 ○資料整理カード及び保管状況が整備された資料を使用し、博物館常設展の一部作品の入替と展示パネルの製作および原稿資料の複製製作を行いました。 ○常設展示の充実に必要な文士村資料について調査、研究を深め、保管管理状況も改善しました。	4	
【関係資料の地域資産化・活用】 ○資料利用の利便性を向上させるための整理を進めるとともに、複製製作や写真撮影を行い資料の保存化を進めました。 ○他の美術館等が開催する企画展への文士村資料の貸出協力（横須賀美術館・青森県立美術館他）のほか、大学機関の研究報告書作成のための資料貸出を行いました。 ○馬込文士村ガイドの会や馬込文士村継承会などの団体や地域との事業協力や資料貸出を行いました。	4	
決算額	693,535 円	
次年度以降の主な取り組み	○引き続き馬込文士村の常設展示への活用と展示内容の充実を図ります。 ○関係資料の地域資産化・活用については、引き続き資料の整理を進めるとともに、所蔵資料の増加に伴う整理・保管状況の点検を行い、資料の状態に応じた保存化を進めます。 ○関係機関や団体との連携については、資料の活用のみならず、博物館事業との協働も見据え事業計画を立て、ボランティア等の活用も図ります。	

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります
 施策 1-2-5 安定した暮らしと人権を守ります

計画事業名	女性の就労支援(再チャレンジ等)						
主な取組内容	就労を希望する女性及び子育て等により離職した女性がその意欲と能力を活かして再就労や起業にチャレンジできるよう、スキルアップのための講座実施や情報提供により支援します。また、働きやすい就労環境の確保を支援するために「ワーク・ライフ・バランス*」の意識を啓発していきます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
女性のための就労支援		→					継続
働く女性のための相談		→					継続
「ワーク・ライフ・バランス」の啓発		→					継続

所管部局	総務部（旧経営管理部）	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【女性のための就労支援】 ○「働きたいママのための再チャレンジ応援ナビ」（2回、参加者延べ37人）、「育休ママのためのパワーチャージセミナー」（3回、参加者延べ42人）、「お仕事復活ナビ」（4回、参加者延べ113人）、「女性のための再就職支援セミナー今日からできる就活ポイント」（参加者50人）、「女性のための就労応援フェア」（参加者32人）、「経済的に自立をめざす女性のための3日間集中セミナー」（3回、参加者延べ41人）を開催しました。	4	
【働く女性のための相談】 ○こころの相談と働く女性のための相談を統合し、日曜日を除く毎日電話相談（569件）、面接相談（176件）を実施しました。	4	
【「ワーク・ライフ・バランス」の啓発】 ○「パパの手でつくる赤ちゃんのハッピータイム」（3回、参加者延べ66人）、「パパとキッズのチャレンジ大作戦」（3回、参加者延べ88人）を開催しました。 ○本庁舎にて、パネル展を実施しました。	4	
決算額	2,983,224 円	
次年度以降の主な取り組み	○相談事業について、区報、ホームページ、情報誌パステルに掲載していますが、あらゆる機会を通じて周知を図っていきます。	

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-1 高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくります

計画事業名	高齢者の就労促進・起業支援						
主な取組内容	高齢者を積極的に雇用するシステムを作るとともに、拠点となる高齢者就労支援センターを整備し、高齢者の就労や起業の相談・支援、情報提供、講座や面接会を開催し、高齢者の働く場の拡大に努めます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
高齢者就労支援体制の整備		調査	策定				
高齢者就労支援センターの開設		検討	設置準備	開設	相談・支援・情報提供		継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【高齢者就労支援センターの開設】</p> <p>○高齢者つながりフェアでブースを設置し、チラシ配布や相談会を実施し、就労相談とともに、いきいきしごとステーションの周知を推進しました。</p> <p>○合同就職面接会（参加者 170 人）、就職面接会（6 回、参加者延べ 58 人）、就職支援セミナー（4 回、参加者延べ 109 人）を開催しました。</p>	4	
決算額	24,412,867 円	
次年度以降の主な取り組み	○高齢者就労支援センターの事業実績の分析を行いながら、引き続き高齢者の働く場の拡大に努めます。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-1 高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくります

計画事業名		元気高齢者の活動、交流の場の確保						
主な取組内容		公園の高齢者向け健康遊具*を活用した教室の実施や指導者育成、公園体操など、地域での交流の場の拡大に努めます。 空き店舗等を利用した、高齢者が働き憩えるふれあいサロンの整備を支援します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
健康遊具公園の活用	公園体操講座(再掲)	実施	拡充					継続
	公園体操指導者育成講座(再掲)	実施	拡充					継続
	自主運営サポート				実施	拡充		継続
ふれあいサロン		検討		モデル事業		整備支援		継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【健康遊具公園の活用－自主運営サポート】 ○公園体操地域指導員のレベルアップのためのスキルアップ講座を本門寺公園（2回、参加者25人）、と矢口二丁目公園（参加者19人）で開催しました。	4	
【ふれあいサロン】 ○さわやかサポートの見守りコーディネーターを通じて、地域でサロン活動を行っている団体（63団体）の情報収集を行った。 ○高齢者を対象としたサロン活動について、高齢者の見守りに関する活動とあわせて、活動事例の記事をとりまとめた事例集を作成しました。事例集は自治会・町会、民生委員等に配布し、活動内容のPR・情報提供を行いました。 ○サロン開設に向けた準備等の支援を行った団体により、2か所（久が原、大森山王）のサロンが開設しました。	4	
決算額	10,322円	
次年度以降の主な取り組み		
○公園体操地域指導員に対するスキルアップ講座については、矢口二丁目公園で3回、ふくし公園で2回（12・3月）開催し、指導者育成を推進していきます。 ○引き続き、地域のサロン活動に関する情報収集や、活動団体に対する情報提供など支援を行っていきます。 ○区所有施設（区民住宅等）を活用したふれあいサロンモデル事業を実施し、その成果を検証することで、今後の支援のあり方について検討していきます。		

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-1 高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくります

計画事業名	介護予防の促進						
主な取組内容	健康づくり施策の一環として寝たきりゼロ(要支援・要介護とならないこと)を目標に、対象を一般高齢者に広げた介護予防のシステムをつくります。一人ひとりの体力や個性に合わせた介護予防プログラムを作成し、実践の場を整備します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
介護が必要となる可能性の高い高齢者向け施策の促進	アンケート調査(介護予防基本チェック)	→					継続
	通所型介護予防講座	→					継続
	訪問型介護予防個別指導	→					継続
元気な高齢者向け施策の促進	介護予防講座	→					継続
	公園体操講座	実施	拡充	→			継続
	認知症予防講座	→					継続
指導者育成	公園体操指導者育成講座	実施	拡充	→			継続
	介護予防サポーター講座	→					継続

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【介護が必要となる可能性の高い高齢者向け施策の促進－アンケート調査（介護予防基本チェック）】 ○65・70歳社会保険対象者に対し、介護予防基本チェックリストのアンケート調査を実施(4,840件発送、2,390件回収、回収率49.38%)し、対象となった412人へ二次予防事業を案内しました。	4
【介護が必要となる可能性の高い高齢者向け施策の促進－通所型介護予防講座】 ○通所型介護予防講座いきいきシニア塾として、各6日制で運動編(参加者延べ2,084人)と口腔編(参加者延べ442人)を実施しました。また、運動・栄養・口腔編がセットになった予防講座である総合プログラム(参加者延べ794人)を実施しました。	4
【介護が必要となる可能性の高い高齢者向け施策の促進－訪問型介護予防個別指導】 ○閉じこもりやうつ、認知症等で通所型介護予防講座いきいきシニア塾に通うことができない方を対象に、訪問型で介護予防の個別指導(延べ147人)を行いました。	4

<p>【元気な高齢者向け施策の促進－介護予防講座】</p> <p>○20 か所のさわやかサポートで介護予防教室を実施（250 回、参加者延べ 3,296 人）しました。</p> <p>○室内ウォーキングを 1 日制で開催（4 回、参加者 175 人）しました。 水中ウォーキングを 1 日制で開催（4 回、参加者 82 人）し、体力測定と筋力アップを 1 日制で開催（4 回、参加者 152 人）しました。</p>	4
<p>【元気な高齢者向け施策の促進－公園体操講座】</p> <p>○公園体操講座を、本門寺公園（11 回、参加者 318 人）、矢口二丁目公園（12 回、参加者 529 人）、ふくし公園（12 回、参加者 321 人）、萩中公園（4 回、参加者 276 人）の 4 公園で実施しました。</p>	4
<p>【元気な高齢者向け施策の促進－認知症予防講座】</p> <p>○認知症予防講演会（参加者 250 人）、認知症予防プログラム（7 日制 3 回、参加者延べ 468 人）を開催しました。</p> <p>○池上会館にて、従来の認知症予防プログラムを超えたより認知症予防効果の高い「絵本の読み聞かせ講座」を東京都健康長寿医療センター研究所と共催（22 回、参加者延べ 381 人）し、自主グループ活動に結びつけました。</p>	4
<p>【指導者育成－公園体操指導者育成講座】</p> <p>○公園体操指導者育成講座（本門寺公園：2 回、参加者延べ 25 人、矢口二丁目公園：10 回、参加者延べ 182 人、ふくし公園：12 回、参加者延べ 92 人、萩中公園：5 回、参加者延べ 95 人）を実施しました。</p>	4

<p>【指導者育成－介護予防サポーター講座】</p> <p>○介護予防活動サポーター養成講座（2日制、参加者延べ36人）、介護予防活動リーダー養成講座（4日制、参加者延べ88人）を実施しました。</p>	<p>4</p>	
<p>決算額</p>	<p>298,060,576 円</p>	
<p>次年度以降の取り組み</p>		
<p>○寝たきりゼロを目標に、一次予防事業では、水中ウォーキングを7～8月を除き通年事業に変更するほか、認知症予防事業では、認知症予防体操を通年で実施するとともに認知機能テストとセットになった認知症予防講座を開催します。また、テーマ別介護予防講座では太極拳を実施します。</p> <p>○区内特別養護老人ホームでボランティアを継続している高齢者を対象に、ボランティアポイント事業をモデル事業として実施します。</p> <p>○二次予防事業では、人気の民間スポーツクラブを活用した総合プログラム（運動・栄養・口腔一体型）を拡大していきます。</p> <p>○認知症予防施策は、各事業の見直しをさらに進め、個人でも手軽に取り組める内容になるよう一層工夫していきます。</p>		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-2 高齢者が安心できる暮らしを支えます

計画事業名		地域の見守り体制の整備						
主な取組内容		地域（民生委員、自治会・町会*、商店会、ボランティア、関係機関、事業者*など）と連携して、さわやかサポート*（地域包括支援センター）を核とした、高齢者を見守り・支え合う体制を整備します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
見守り・支え合いネットワークづくりの啓発	シンポジウムの実施、先駆的事例集の作成							継続
	相談窓口の周知							継続
	広報媒体の活用							継続
見守り・支え合いネットワーク整備の推進						充実		継続
緊急通報システムの調査・検討								継続

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
【見守り・支え合いネットワークづくりの啓発－シンポジウムの実施、先駆的事例集の作成】 ○区内で行われている高齢者見守り・支え合いネットワーク活動事例の記事（66 団体）をとりまとめ、事例集を作成（2,000 部）し、啓発を行いました。	4
【見守り・支え合いネットワークづくりの啓発－相談窓口の周知】 ○見守りチェックシートを作成（7,800 枚）し、自治会・町会や地域の商店等に配布し、日常での高齢者の見守りに活用してもらうよう周知しました。 ○見守りキーホルダー登録のために来所した区民に対し、さわやかサポートの役割の周知や高齢者見守りに関する啓発を行うことで、顔が見える関係づくりに努めました。	4
【見守り・支え合いネットワークづくりの啓発－広報媒体の活用】 ○区報（平成 24 年 4 月 1 日号、6 月 11 日号）の 1 面に記事を掲載したほか、区ホームページへの掲載、シティーニュースおおた（平成 24 年 5 月後半号）にて見守りキーホルダー事業の特集を放送しました。 ○老人クラブやシルバー人材センター等の会報誌への記事掲載や、雑誌「月刊介護保険」（平成 24 年 10 月号）の巻頭特集に記事を掲載しました。	4

<p>【見守り・支え合いネットワーク整備の推進】</p> <p>○高齢者見守りキーホルダー事業を開始し、14,510人の登録がありました。</p> <p>○各さわやかサポートに高齢者見守りコーディネーターを配置し、キーホルダー事業のPRや見守りチェックシート等のツールを活用しながら、区と地域の連携による高齢者見守り体制づくりに取り組みました。</p> <p>○高齢者見守り推進事業者を新たに3事業者登録したことにより、全14事業者となり、区と連携した見守りを強化しました。</p>	4	
<p>【緊急通報システムの調査・検討】</p> <p>○関係課で検討を行うとともに、社会福祉協議会との情報交換等の打ち合わせを行いました。</p> <p>○実態把握の一環として、協力員へのアンケートを実施しました。</p>	4	
決算額	19,749,524 円	
次年度以降の主な取り組み		
<p>○引き続き、高齢者見守りネットワーク事業を推進し、さわやかサポートを核とした地域の方々と連携した高齢者を見守る体制づくりの推進に取り組んでいきます。</p> <p>○見守りキーホルダー登録や見守りチェックシートなどのさらなる普及啓発・活用を図ることで、地域の高齢者見守りに関する気運を高めていきます。</p> <p>○高齢者見守り推進事業者との連絡会を行い、情報交換・情報共有することで、さらなる連携を図っていきます。</p> <p>○緊急通報システムについては、これまでの情報収集、検討の結果を踏まえて、具体的な見直し内容の検討を行います。</p>		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-2 高齢者が安心できる暮らしを支えます

計画事業名		家族介護者への支援						
主な取組内容		家族介護者の精神的・身体的負担の軽減を図るため、ショートステイ*の受入れを拡大していきます。また、家族介護者への支援や相談、セミナーの充実も図ります。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
ショートステイの拡充								継続
相談の実施	在宅高齢者訪問相談							継続
	こころの健康相談							継続
介護セミナーの実施								継続
家族介護者支援事業の充実								継続

所管部局	福祉部、保健所	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【ショートステイの拡充】 ○新設の特別養護老人ホーム「バタフライヒル大森南」を 24 年 5 月に開設し、ショートステイ（10 人）を併設しました。	4	
【相談の実施－在宅高齢者訪問相談】 ○家族介護者の健康相談や、在宅での栄養・運動・口腔に関する相談（相談件数 512 件）を行いました。 ○区報（平成 24 年 5 月 11 日号）に掲載するとともに、各地域福祉課でのチラシ配布等で事業周知しました。	4	
【相談の実施－こころの健康相談】 ○家族介護者からのこころの健康に対する相談には、日常的に区や地域包括支援センターの専門職（保健師等）が対応しました。 ○より専門的な相談や、医療的な支援が必要な場合は、関係部局で連携し、訪問による相談を実施する等、専門機関等へ誘導しました。	4	

<p>【介護セミナーの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「認知症に負けない脳を作る」のテーマで、認知症予防講演会を開催（参加者 250 人）しました。 ○認知症サポーター養成講座を 52 回実施し、約 1,600 人が認知症サポーターとなりました。 ○すべてのさわやかサポートにキャラバン・メイト（認知症サポーターの講師）を 1 名以上配置しました。 	4	
<p>【家族介護者支援事業の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族介護者に対する介護方法の指導や健康相談等を実施したほか、家族介護者情報誌「ゆうゆう」（夏号～春号、各 6,000 部）を発行し、民生委員や介護事業者への配布を行うとともに、ホームページの掲載などで周知し、2つの新規介護家族会（介護者サロンひまわり（矢口）、介護者の会（糀谷））が活動を開始しました。 ○家族介護者支援ホームヘルプサービス事業の周知について、介護保険事業者連絡会への担当出席による周知のほか、区報への記事の掲載（平成 24 年 4 月 1 日号、11 月 11 日号）や介護保険サービス事業者向け Web 情報提供システム「大田区ケア倶楽部」への記事の掲載など、さまざまな機会を通じて、チラシ配布等を行いました。 ○家族介護者支援ホームヘルプサービスの利用実績は述べ 2,610 時間でした。 	4	
<p>決算額</p>	<p>15,002,744 円</p>	
<p>次年度以降の取り組み</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○都補助協議に係る相談に随時対応していきます。 ○引き続き、認知症サポーター養成講座を実施していきます。認知症予防講演会については、認知機能検査とセットになった認知症予防講座として開催していきます。 ○情報誌の紙面の充実や健康相談等の PR など、家族介護者への支援を行っていきます。 ○家族介護者の負担軽減のために家族介護者支援ホームヘルプサービス事業が活用されるよう、さまざまな機会を捉えて周知に努めます。 		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-2 高齢者が安心できる暮らしを支えます

計画事業名	さわやかサポート [*] (地域包括支援センター)の拡充と福祉ネットワークの強化						
主な取組内容	さわやかサポートを核とした地域における多様な社会資源をネットワーク化するとともに、区民の利便性等を考慮し、さわやかサポートの適正な配置を行っていきます。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26~30
さわやかサポートの運営			検討・再配置		充実		継続
よりわかりやすい施設案内の整備		検討	実施				継続
さわやかサポート相談担当職員研修の実施							継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【さわやかサポートの運営】 ○区が保有する行政情報をさわやかサポートで参照することができる「行政情報参照システム」を開発し、導入しました。	4	
【よりわかりやすい施設案内の整備】 ○区報(平成 24 年 4 月 1 日号、6 月 11 日号)の 1 面に記事を掲載し、PRを行いました。 ○さわやかサポート六郷中の(仮称)仲六郷二丁目施設内への移転に向けた準備検討を行いました。	4	
【さわやかサポート相談担当職員研修の実施】 ○さわやかサポート職員の相談対応能力の向上を目的とした研修(3 回、参加者 67 人)を実施することで、さわやかサポートの機能強化を図りました。	4	
決算額	609,516,233 円	
次年度以降の主な取り組み		
○引き続き、さわやかサポートを核とした地域の高齢者を支援する体制づくりを推進するため、さわやかサポートの機能強化に取り組みます。 ○仲六郷二丁目施設について、区民が利用しやすい施設となるよう、施設の PR や設置場所について、引き続き検討していきます。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-2 高齢者が安心できる暮らしを支えます

計画事業名		介護保険施設等の整備支援					
主な取組内容		特別養護老人ホーム(ショートステイ*を含む)、老人保健施設、認知症高齢者グループホーム*等の整備を推進するため、民間事業者の施設整備を支援します。とりわけ、特別養護老人ホームについては、民間誘導に向けた調査を実施し、民間事業者が参入しやすい環境づくりに努めていきます					
(平成/年度)		21	22	23	24	25	26～30
特別養護老人ホームの整備支援	整備意向調査	調査実施					事前協議 竣工・開設 (160床以上)
	整備支援		事業推進		事前協議		
老人保健施設の整備支援							継続
認知症高齢者グループホームの整備支援							継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【特別養護老人ホームの整備支援－整備支援】 ○特別養護老人ホームの整備に関する相談に対応しており、1 施設が 24 年度東京都補助協議を申請するに至りました。	4	
【老人保健施設の整備支援】 ○老人保健施設の整備等に関する相談（5 件）に対応しました。	4	
【認知症高齢者グループホームの整備支援】 ○運営事業者の公募を行い、2 事業者（各 3 ユニット）を採択しました。 ○両事業者とも着工しました。	4	
決算額	169,504,605 円	
次年度以降の取り組み		
○入所希望者の多い特別養護老人ホームは、施設整備のうち最優先事業として事業者支援に取り組んでいきます。 ○老人保健施設は、第 5 期介護保険事業計画に沿って整備支援を進めていきます。 ○認知症高齢者グループホームは、公募により良質なサービスの提供が見込める運営事業者を選定し引き続き整備していきます。		

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-2 高齢者が安心できる暮らしを支えます

計画事業名	高齢者総合相談体制の構築						
主な取組内容	高齢者の保健・福祉・介護に関する相談を総合的に、また、いつでも対応できる体制を整備します。夜間・休日電話相談(高齢者ほっとテレフォン)の実施等により、高齢者サービスに結びつけ、高齢者や家族が安心して暮らせるよう支援します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
夜間・休日電話相談(高齢者ほっとテレフォン)の実施		開始					継続
各種高齢者相談の連携体制の構築・推進		検討	推進				継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
<p>【夜間・休日電話相談（高齢者ほっとテレフォン）の実施】</p> <p>○高齢者ほっとテレフォン（区窓口が閉庁している平日夜間、土・日曜日、祝日及び年末年始に行う電話相談）を実施し、高齢者の心理的な相談、健康に関する相談、保健福祉の具体的な相談等（相談件数 1,107 件）に対応しました。</p> <p>○相談内容等は、高齢者本人からの相談が約 59%を占め、医療・健康相談、介護保険制度の相談、悩み（心理）相談が多くなっています。</p> <p>○匿名での相談を原則としつつ、緊急や虐待が疑われる相談を関係窓口につなぎました。</p> <p>○事業の周知は、区報（4 回）、ポスター（統合ポスター、高齢者見守り協力店ポスター等）、ちらしの配布により実施しました。また、見守りキーホルダー登録時の申請書類等を活用して周知を図りました。</p>	4	
<p>【各種高齢者相談の連携体制の構築・推進】</p> <p>○さわやかサポートへの支援体制として、区が保有する行政情報をさわやかサポートで参照することができる「行政情報参照システム」を開発し、平成 25 年 3 月に導入しました。</p> <p>○さわやかサポート職員の相談対応能力の向上を目的とした研修（3 回、参加者 67 人）を実施しました。</p>	4	
決算額	8,722,615 円	
次年度以降の主な取り組み	<p>○夜間休日等、高齢者や家族等の不安解消や福祉、介護等制度の相談に気軽に活用していただけるよう、引き続き高齢者ほっとテレフォンの周知に努めます。</p> <p>○高齢者総合相談窓口であるさわやかサポートに対する支援体制の充実に取り組んでいきます。</p>	

基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-3 いざというときに高齢者を支える体制をつくります

計画事業名	高齢者緊急一時保護・支援体制の整備						
主な取組内容	虐待・介護放棄により自らの安全を守ることが困難になった人、認知症により資産管理・生活維持ができない人、退院後の居住確保ができない人等に対し、緊急一時保護・支援体制を整備します。						
	(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
緊急支援体制の構築		検討	充実				継続
緊急ショートステイ*の拡充		充実					継続

所管部局	福祉部	
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況	
【緊急支援体制の構築】 ○区内警察署との連絡会議を開催し、区の高齢福祉サービスの情報提供や認知症高齢者への対応事例等の意見交換を行いました。	4	
【緊急ショートステイの拡充】 ○平成 24 年度から 1 床増、計 5 床としたことにより、満床のため利用できない件数が、平成 23 年度と比較して 30 件（60%）減少し、利用ニーズに応えることができました。 ○受入施設との打ち合わせ会を開催（3 施設）し、利用状況の把握等を行いました。 ○介護保険サービス事業者向け Web 情報提供システム「大田区ケア倶楽部」等を活用し、事業内容と増床による緊急ショートステイのサービス拡充について周知しました。	4	
決算額	14,660,860 円	
次年度以降の主な取り組み	○事例収集などにより実態把握等の検討を続けるとともに、関係機関との連携強化をさらに進め、より適切な支援体制の構築をめざします。	

- 基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち
 個別目標 1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります
 施策 1-3-3 いざというときに高齢者を支える体制をつくります

計画事業名		高齢者等の権利擁護の推進						
主な取組内容		成年後見制度*及び地域福祉権利擁護事業利用促進によって高齢者等の権利擁護を図ります。成年後見制度について、必要に応じて区長申立、低所得者への後見人報酬助成、社会貢献型後見人養成、広報啓発活動を実施します。						
		(平成/年度)	21	22	23	24	25	26～30
成年後見制度の活用支援	成年後見制度の周知	→						継続
	成年後見事業の推進	→						継続
後見人の確保	社会貢献型後見人養成	→						継続
	法人後見の推進	→						継続
地域福祉権利擁護事業利用促進		→						継続

所管部局	福祉部
平成 24 年度の取り組み内容	進捗状況
<p>【成年後見制度の活用支援－成年後見制度の周知】</p> <p>○区報（平成 24 年 8 月 1 日号、平成 25 年 2 月 11 日号）に成年後見制度の案内を掲載したほか、介護保険事業者連絡会（2 回）で周知しました。</p> <p>○社会福祉協議会成年後見センター職員を、地域学習会等に講師として派遣（15 回）し、支援を行いました。</p>	4
<p>【成年後見制度の活用支援－成年後見事業の推進】</p> <p>○社会福祉協議会成年後見センターで、成年後見制度の活用に向け、窓口相談（1,255 件）、専門相談（39 件）、親族後見人等を対象とした成年後見人養成講座（基礎 3 回、実務 3 回、参加者 87 人）、金融機関窓口職員等を対象とした窓口担当者法律セミナー（4 回、参加者 84 人）を実施しました。また、関係団体等との懇談会など、共催事業を実施（11 回）しました。</p> <p>○家庭裁判所に、成年後見制度に関する区長申立て（19 件）を行いました。</p> <p>○庁内検討会を開催し（3 回）、区長申立ての流れや関係各課での連携体制について確認しました。また、庁内の業務担当者連絡会を開催し、区長申立、後見報酬助成などの事務処理について周知、確認しました。</p>	4

<p>【後見人の確保－社会貢献型後見人養成】</p> <p>○社会貢献型後見人の育成及び活用のために、弁護士等の専門職を交え、社会福祉協議会成年後見センターの体制整備を進めました。</p> <p>○社会貢献型後見人の後見人受任に向けて、社会福祉協議会成年後見センターにおける実習を充実しました。また、東京都養成基礎講習修了者（4人）が実習を継続して行いました。</p> <p>○平成24年度東京都社会貢献型後見人養成基礎講習受講者を公募し、4人推薦し、うち3人が基礎講習を修了しました。</p>	4	
<p>【後見人の確保－法人後見の推進】</p> <p>○社会福祉協議会成年後見センターでの法人後見の新規受任件数は6件（法定後見5件、任意後見1件）、受任終了件数は2件（法定後見2件）で、受任件数は21件（法定後見15件、任意後見6件）となりました。</p>	4	
<p>【地域福祉権利擁護事業利用促進】</p> <p>○社会福祉協議会成年後見センターにおける地域福祉権利擁護事業（東京都事業の区社会福祉協議会受託分）について、新規契約件数は5件、終了件数は16件、契約件数は44件となり、福祉サービス利用援助等の支援を行いました。</p> <p>○地域福祉権利擁護事業（対象拡大部分）について、新規契約件数は1件、終了件数は4件、現在契約件数は12件となり、証書等預かり、支払い代行による支援を行いました。</p>	4	
決算額	29,623,229円	
次年度以降の主な取り組み		
<p>○成年後見制度については、社会福祉協議会成年後見センターと連携しながら、引き続き制度の周知や利用支援の充実を図ります。</p> <p>○社会貢献型後見人の育成から活用に向けての取り組みを進めます。</p>		